

## 地域の中に沁み込んでいく、スポーツでは終わらない活動

### 特定非営利活動法人

### 志木総合型地域スポーツ・レクリエーション クラブ（愛称：クラブしっきーず）

（第II期2015年、2016年助成）

話し手：増田三枝子さん（理事長）  
増田康太さん（クラブマネジャー）



左から、増田康太さん、三枝子さん、しっきーずステーションのボランティア「つばさ」のお2人

いつも元気なクラブしっきーずのみなさん。しっきーずは、総合型のスポーツクラブですが、団体名は、総合型地域「スポーツクラブ」ではなく、総合型地域「スポーツ・レクリエーションクラブ」となっています。しっきーずの拠点「しっきーずステーション」で、スポーツレクリエーションに秘められた想いや地域とのかかわりについてお話を伺いました。

**康太** 拠点の「しっきーずステーション」は、毎週火曜日～金曜日の11時から17時まで、誰でも立ち寄ることができます。元はクリーニング屋さんだった建物を改装して使っています。1階がコミュニティスペースで、2階は子どもたちが勉強したり遊んだりする部屋があります。子どもの造形教室（アトリエ）の作品制作・展示も行っています。

#### ●どのようなきっかけで活動を始めたんですか？

**三枝子** 2000年に総合型地域スポーツクラブとして始まりました。日本レクリエーション協会のモデル事業として、志木市立宗岡第三小学校のボランティアルームで小学生の保護者が中心となり発足しました。2002年にはNPO法人格を取得しました。

ただ、子どもたちが学校を卒業すると保護者だけで続けるのは難しくなってきました。そこで2007年からは太極拳の教室などに通っていたシニア会員たちが、活動の中心を担うことになりました。

**康太** 現在は、クラブマネジャーも設置して志木市内の小・中学校の体育館や校庭とクラブしっきーずのクラブハウス「ステーション」を中心に、プログラムを展開しています。

#### ●スポーツに限らず多様なプログラムがありますね

**三枝子** 定期的なものとしては月曜夜の「マンデーナイトクラブ」、水曜午後の「アフタヌーンクラブ」などで、種目としては車いすバスケットボール、インディアカ、シッティングバレー等々を楽しみます。

ステーションでは、音楽レクや「木庵で逢いましょう」のように毎月第二木曜日に皆でごはんを作って食べるプログラムがあります。また、市内外の団体や施設にスポーツレクリエーションをお届けすることもあります。夏休みに子どもたちがスタンプラリーをしながらご近所の方とふれあう「110番ウォーク」も面白いですよ。



しっきーずステーションの様子  
左：うごいてうたってほとびる心（ひざうつた）、右：木庵

#### ●活動のテーマにこだわりがあると聞きましたが

**三枝子** 「交流のきっかけづくり」「地域での人間関係づくり」をテーマにしています。私たちはスポーツをコミュニケーションのツールとして活用しています。また、活動内容もスポーツにこだわりません。レクリエーションという言葉を大事にしている、創造（Creation）を繰り返す（Re）ということなんです。

#### ●スミセイのプログラムではどのようなことをされたのでしょうか

**康太** 運動機会の少ない若者や障がいのある人と金曜夜にスポレクを行う「フライデーナイト」と、年1回誰でも参加できる「大蛇ヶ淵（おろちがふち）頂上決戦」です。頂上決戦では小学生から80代まで50名ほどが集まり、ドッジビー、ユニホッケー、リングボールなどで競いました。

面白いのは、普段のしっきーずのプログラムでは、なかなか交わらないような年齢がバラバラな会員さんが一





毎年1回の「大蛇ヶ淵 頂上決戦」(いす取りゲーム)

緒になって楽しんでいるところです。他にも、会員が友達を連れてきて—もちろん初めて参加したわけですが、初対面の障がいのある人をサポートしたり、そういう光景が“しっき—ずらしい”と思いました。

**三枝子** そうやって関係性や、年齢、性別だって超えていくのはスポーツの力だと思います。日常的に暮らすまちで、いかに挨拶を交わせる人間関係をつくれるかは、とても重要なことだと考えています。私たちのプログラムを、そのような出会いの場の一つにしていきたいと考えています。

### ●障がいのある人も自然に参加していますね

**康太** 私が通っていた小学校では特別支援学級がなく、障がいのある友達も普通学級と一緒に6年間過ごしました。その同級生が今、しっき—ずと一緒に活動をしています。他にも親御さんの口コミや社会福祉協議会からの紹介で来ることもあります。

**三枝子** それぞれの人に対する配慮はありますが、障がいがあるからといって特別扱いはしません。一人の障がいのある若者は、志木市のインディアカの市民大会と一緒にプレーヤーとして参加しました。

**康太** その時は、しっき—ずの子ども会員も一緒に参加します。子どもは子どもで「何かあの人違うなあ」と感じ、障がいのある若者は、子ども達に見られている自分を意識します。それがいいんです。

**三枝子** 近くに発音が上手くできない子が住んでいるのですが、よくステーションの音楽レク「ほとびる心」にきて発音の練習をしています。先日、木庵の乾杯用に近所の酒屋さんにおつかいを頼んだことがありました。注文しようとしても上手く伝わらない。でも、それが社会です。

後で、酒屋さんに事情を話すと、「何かあったら言うわね」と彼女の障がいについて理解してくれました。そうやって顔見知りをつくり、だれもが笑顔でくらせるまちにしていきたいんです。

### ●今後はどのようなことに取り組まれるのでしょうか？

**三枝子** 具体的には防災運動会の実施などを考えています。今年の積雪をきっかけに、改めて誰が地域の福祉の担い手になるのかを考えました。地域で日常を過ごしており、かつ動けるのは中学生だろうと。そこで中学校、町内会、社協と協力して災害時のレスキュー活動にレクリエーションを絡ませるレスキューラーニングとアクティビティを進めることになりました。

**康太** 私たちのような NPO の力とは“普段”の力だと思います。これからも日常の人間関係をつくること。幹となる定期的なプログラムを続けながら、自分たちができることは何かを考えて、枝葉を少しずつリニューアルしていきます。

**三枝子** スポーツに始まり、スポーツに終わらない。それがしっき—ずです。



「大蛇ヶ淵 頂上決戦」(リングボール)

### <インタビューを終えて>

しっき—ずの活動は、いつも捉えどころがないと、密かに思っていた。今回お話を伺って、その理由がよく分かった。助成金で応援できる活動は、ほんの一部。その他の大半の活動は報告書では現れにくい。しかも、しっき—ずでは、普段の生活の中で同じ市民として地域と関わり、見守り、一つ一つの活動の要素が重層的に絡み合っている。スポーツレクリエーションが、潤滑油のように働いている(動かしている)ように感じた。

地域とスポーツの関係、そして総合型地域スポーツクラブの役割について改めて考えさせられた。

(インタビュー・2018年6月28日(木)於:しっき—ずステーション 文責:市民社会創造ファンド 山田絵美)

### —団体概要—

特定非営利活動法人

志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ  
(愛称:クラブしっき—ず) (埼玉県志木市)

志木市を拠点に総合型地域スポーツクラブとして活動。子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、多様な人を対象にスポーツレクリエーションを行う。

<https://shikkys.jimdo.com/>

※1 ページ冒頭の写真以外は団体提供